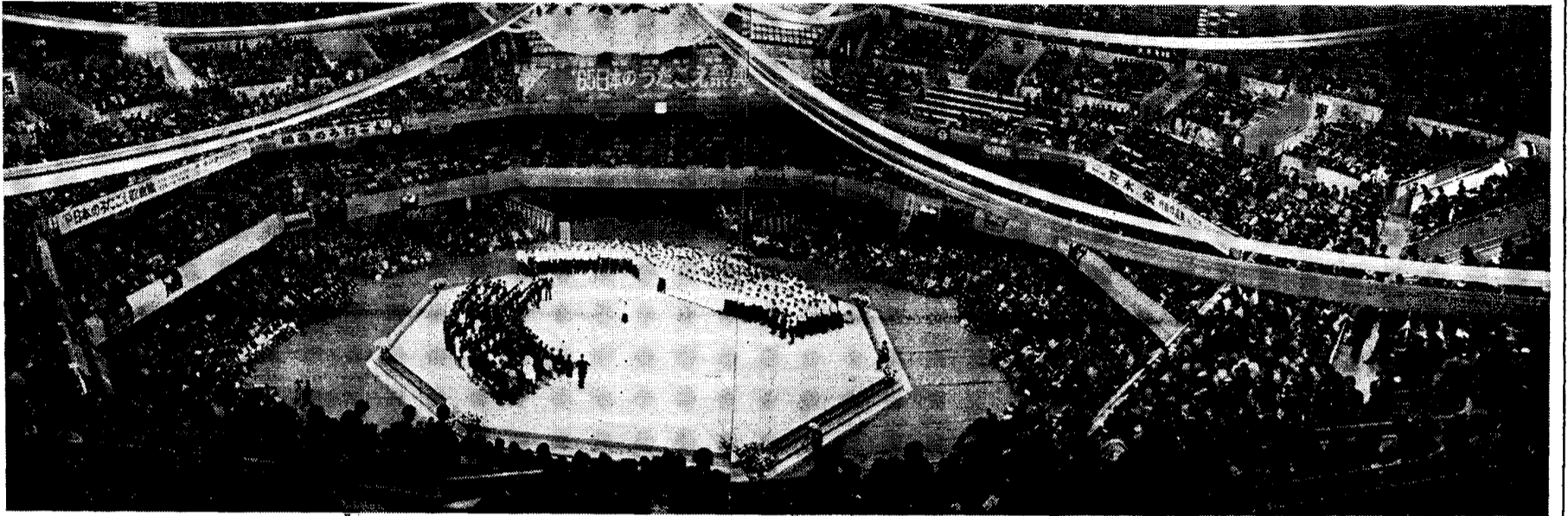


うたごえは平和の力  
うたえ心を、うたえのぞみを  
うたごえを一千万人に!

# うたごえ新聞

編集 日本のうたごえ  
実行委員会  
発行 うたごえ新聞社  
東京都新宿区  
西大久保 3の67  
電話 (200) 0101-5  
1部 20円、(一部  
読者は千6円負担で創作  
特集号とも6ヶ月420円)



1965年日本のうたごえ祭典より

## 一九六五年 日本のうたごえ 総会におけるあいさつ

日本のうたごえ実行委員長

関 鑑 子



ぬけてこの画期的な成功をもたらした皆さんに心からのねぎらいと御礼の拍手をおくりします。

皆さんのさまざまな実践が総会分科会で活潑に報告されました。その創意や苦斗は総会を通じてみんなのものとならなければなりません。合唱発表会や創作発表会における経験の交流はさらに発展するための問題の解決にぜひ必要なことです。郷土の歌と踊りにますます誇りと自信を強めて自分たちの掘り起しに確信をもたれたことと思います。一千万にむかっての前進が今度の祭典でいちじるしく目立っております。みなさんのまわりの人たちへさらに一歩手をさしのべて下さい。廿周年にむかっての一千万はぐっと早まることが見えています。私たちの心を歌い、のぞみを歌うことはすべての日本人に共感され、同感されるものです。勇気をもってすすみましょう。

このたびの祭典に中国音楽家協会から作曲家李煥之氏、瞿希賢さんの御二人を招待したことは、一九五六年のソ連エイゼン氏を招いて以来の画期的なことでした。皆の希望はいわれられ三人のお客は私どもと祭典を共にされました。これは今後の交流と親善に大きい力になるでしょう。中国の皆さまに心からのあいさつを送りたいと思います。同時に折から訪日されたソ連の作曲家パフムートワさんとミルザヤン氏のお二人を迎えたことは何となく喜びでしょう。国際親善と交流は人民のうたごえから。みなさんのうたごえの発展が国内にも国際的にもいっそうひろがることを考えられます。両国民に親善のあいさつを送りましょう。

うたごえの歴史はまだ浅くみなさんもまだ若い。成功に油だんなく、さらに全国力を合せ、ますます団結をかため、量において質において、もう一そう前進するため努力を重ねましょう。日本のうたごえは、一人一人の力が結びあつてこのように大きいものとなるのだと、中国の代表の質問にお答えしましたが、真に日本の平和の力となり、明るい幸福をもたらすよう、今こそ一人一人が、もう一そう力を発揮すべき時ではないでしょうか。お祝いとともに総会を通じて一九六六年の躍進を誓いあいのびのびと、明るく心結び、手を結びましょう。